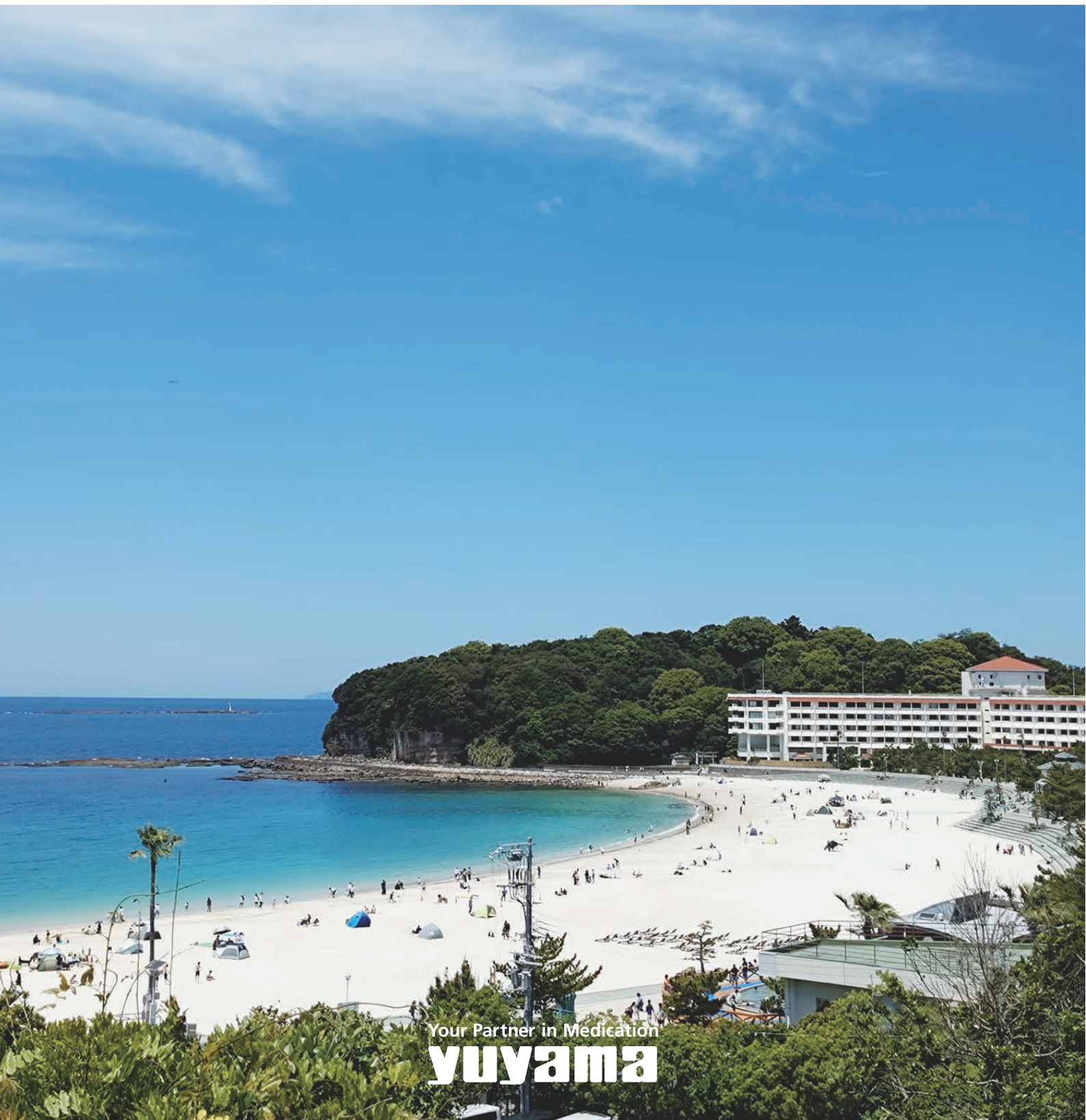


限りある資源を大切に

# 環境報告書 2025

Environmental Report 2025



## INDEX

|                |   |
|----------------|---|
| 会社概要・企業理念      | 1 |
| 環境方針・環境管理体制    | 2 |
| 環境マネジメントシステム   | 3 |
| 2025年度の環境目標と実績 | 5 |
| 環境関連法規制について    | 7 |

## 大阪本社概要

名称：株式会社 ヨヤマ  
株式会社 湯山製作所

創業：昭和39年11月

本社：大阪府豊中市名神口1丁目4番30号

代表：代表取締役 湯山 裕之

資本金：9,000万円

事業内容：病院、医院、診療所、調剤薬局の調剤機器  
設備及び製剤設備機器、電子カルテシステム  
の開発・製造・販売

従業員数：約1,642名（令和8年5月現在）

事業所：東京本社  
営業所：札幌、仙台、名古屋、広島、福岡 他  
全国約55拠点

工場：本社工場・岡山工場

現地法人：中国（上海）  
：アメリカ（イリノイ、フロリダ、テキサス、  
カルフォルニア、コネチカット）  
：台湾（台北）  
：香港（香港）  
：韓国（ソウル）



## 岡山工場概要

名称：株式会社 湯山製作所 岡山工場

創業：平成10年3月

所在地：岡山県勝田郡奈義町柿502-19

事業内容：分包紙、薬袋紙、処方箋の製造

従業員数：77名（2026年6月時点）

## 企業理念

私たちは、常に創造力と最先端技術をもって、  
医療を通じ 社会に貢献し、  
その報酬をもって、当社の限り無き発展と  
社員一同の豊かで健康な生活向上を  
目指す集団です。

## 環境方針

### 環境方針

湯山製作所の全社員は、「医療を通じ社会に貢献し、共存共栄をはかる」という理念に基づき、その全事業活動の継続的改善に努め、環境保全のために限りある資源を大切にしていまいます。

1. 社員一人一人が地球環境問題の重要性を自覚して、その保全に努めます。
2. 環境に関する法規制及びその他の要求事項を遵守すると共に、自主管理基準を定め、環境汚染の防止に努めます。
3. 生産活動において、省エネルギー・省資源・リサイクル活動の推進を図り、地球環境の保全に努めます。
4. 地域社会との環境調和を図ると共に、地域の環境保全活動に積極的に協力します。

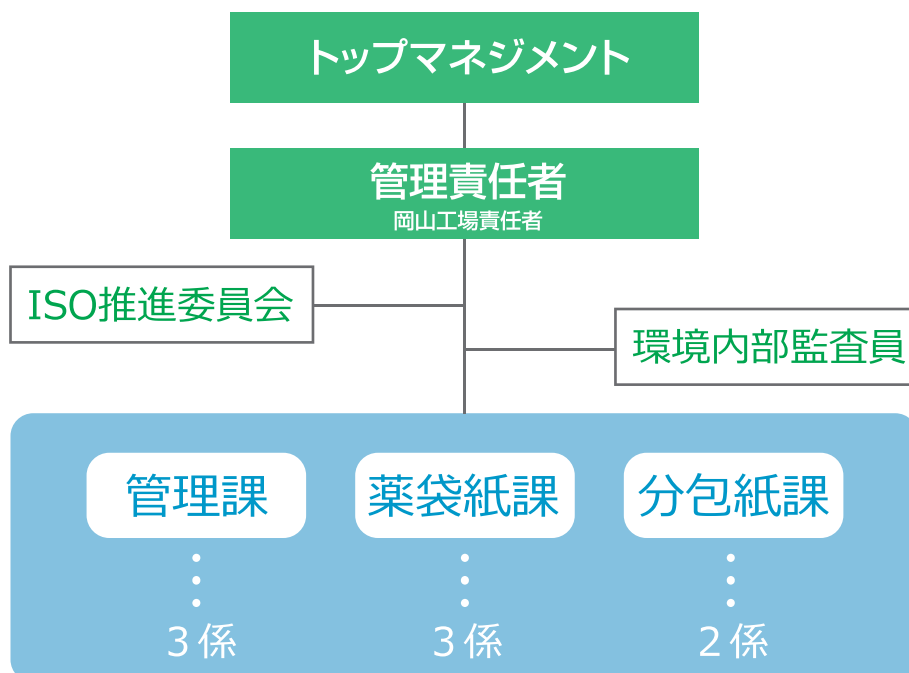
代表取締役 湯山 裕之  
常務取締役 黒瀬 考史  
2003年2月14日 制定

### 適用範囲

株式会社 湯山製作所 岡山工場における環境マネジメントシステムは、事業活動とサービスに関連する環境保護活動に適用します。

- 組織の名称：株式会社 湯山製作所 岡山工場
- 適用サイトの物理的境界線：岡山県勝田郡奈義町柿502-19の敷地境界内
- 活動範囲：分包紙・薬袋紙の包装材並びに調剤業務支援の記録紙等の製造

## 環境管理体制



## 環境マネジメント

### ISO14001 : 2015 認証取得

ISO14001は国際標準化機構(International Organization for Standardization)が1996年に制定した、環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格です。企業市民として環境に負担をかけない生産活動・体制に対して、その認証が行われます。

株式会社湯山製作所 岡山工場では、業界他社に先駆けて2003年9月にISO14001を取得。廃棄物削減、エネルギー使用の効率化、リサイクル推進などを実施してきた成果が公式に認められ、現在は2015年度版へ移行し運用されています。

また、当社の環境保全に対する取り組みが、ISO14001規格が規程しているマネジメントシステムに適合しているか否かを評価する為、外部機関による審査および内部監査員による監査を実施しています。審査時および監査時の指摘事項に対しては是正処置を実施し、システムの改善を図っています。

| 事業所        | 取得年月日    | 監査の種類 | 実施日          |
|------------|----------|-------|--------------|
| 湯山製作所 岡山工場 | 2003年 9月 | 定期審査  | 2025年度 7月    |
|            |          | 内部監査  | 2025年度 6月、2月 |



### ISO9001 認証取得

株式会社 湯山製作所では、国際標準化機構(International Organization for Standardization)が定めた国際規格である、ISO 9001:2000認証を2003年3月取得いたしました。認証の取得により、従来の規格ISO9001(1994年版)で要求している品質保証のプロセス管理に加えて、顧客満足とその向上のために必要なプロセスを識別、管理し、さらに継続的改善の仕組みが構築されていること、そしてそれが適切に運用されていることが実証されました。



### 岡山エコ事業所認定

2004年2月に創設された『岡山エコ事業所認定制度』に基づき、循環型社会の形成の為に取り組みが先進的、かつ、優秀であると認められる事業所を県が『岡山エコ事業所』として認定し、その取り組みを広く周知する事により、循環型社会の形成に向けての取り組みの促進を図る制度です。

株式会社湯山製作所 岡山工場では、2007年8月にこれまでの取り組みや活動が認められ、『岡山エコ事業所』の一員として認定されました。



### おokayamaプラスチック3R宣言事業所認定

近年「海洋プラスチックゴミ」の問題が社会問題となっています。環境省の推進する「プラスチック・スマート」に合わせ岡山県独自の取り組みとして、プラスチックにおける「3R」の推進により、プラスチックゴミの削減に取り組む事業所等を募集/認定/周知する事で広く問題意識の共有をはかる取り組みに湯山製作所岡山工場も参画し登録されました。



# SDGs (Sustainable Development Goals)

以前からの取り組みのみならず、  
これからも目標達成に向け、新たな活動を続けていきます。

2015年に国連総会で持続可能な開発目標（SDGs=Sustainable Development Goals）が採択され、環境保護や経済成長に対する考え方が大きく変わり、企業が持続社会の発展・向上に貢献できる取り組みを積極的に進めることが求められています。

SDGsは、当社にとっても大きな目標でもありSDGs達成に向け、持続可能な社会実現を目指し、事業活動を行っております。

今後もSDGsに取り組み、調剤の未来を切り拓く責任あるメーカーとして、取り巻く環境の変化を牽引し、医薬品に関わる全ての医療従事者から頼りにされるパートナーを目指してまいります。



## ■ 湯山製作所 岡山工場のSDGs目標に対する取り組み

### SDGs目標

### 岡山工場の取り組み



持続可能な生産消費形態を確保する

- 廃棄物の削減
- 環境に優しい資材の使用



気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

- エネルギー使用の削減



陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

- 緑化の推進

## 2025年度の環境目標と実績

岡山県では「岡山県循環型社会形成推進条例」に基づき「岡山エコ事業所認定制度」が創設されています。

循環型社会を形成する為の取り組みが先進的かつ優秀であると認められた事業所を、「岡山エコ事業所」として県が認定しています。

私達は「岡山エコ事業所」の認定継続のもと今後も、より一層の環境保全活動を推進していきたいと思えます。

### ■ 岡山工場の2025年度環境目的・目標と実績

| 目的                    | 目標                          |        | 実績                         |
|-----------------------|-----------------------------|--------|----------------------------|
| CO2排出量削減              | ●購入電力量削減<br>(自給率40%以上)      |        | 達成率：92%                    |
| 環境負荷低減<br>(作る責任・使う責任) | ●改善提案活動                     | 品質     | 達成率：93%                    |
|                       |                             | 生産性    | 達成率：104%                   |
|                       |                             | コストダウン | 達成率：100%                   |
| 設備予防保全                | ●環境負荷を考慮した設計<br>(3件/年)      |        | 達成件数：3件                    |
|                       | ●設備トラブルの予防<br>(設備停止時間30%削減) |        | 保守部品の充実化、予備部品製作<br>達成率：88% |

## ■ 太陽光発電設備を導入し、本稼働開始

当工場では、環境負荷低減活動の一環として **2023年4月**より岡山工場敷地内、及び屋根上に太陽光パネルによる発電設備と蓄電池システムを導入し、自家消費型太陽光発電（PPA）を開始しました。これにより岡山工場の全消費電力の約半分を賄えるようになりました。また、残り半分以上を電力会社の自然エネルギー由来発電の電力契約とすることで、岡山工場で消費される全電力を **100%自然エネルギー稼働**とする事が出来ました。

これら再生可能エネルギーである太陽光等による発電を積極的に活用する事で、政府が推進する自然エネルギーの普及・拡大やCO2排出量の削減にこれからも貢献していきます。

▼敷地内に設置した太陽光パネル



▼フェンス外観



▼蓄電池システム



▼屋上に設置した太陽光パネル



# 環境関連法規制について

## 環境関連法規制の遵守

当工場では大気、水質、悪臭、騒音、振動等の各種法規制や、労働安全衛生法、消防法などの法規制及び、各自治体の条例・協定を遵守しています。

また、実態把握と監視のために定期的に監視・測定を実施しています。

### ■ 環境に関連する苦情・事故

| 年度   | 苦 情               |   |
|------|-------------------|---|
| 2005 | 水質 に関する苦情         | 直ちに調査を行い、清掃回数を増やす等の改善策を実施                 |
| 2006 | 紙廃棄時の散乱 に関する苦情    | 直ちに調査を行い、廃棄方法の見直し等の改善策を実施                 |
| 2007 | 低周波 に関する苦情        | 直ちに調査を行いました当工場からの発生は確認されませんでした。調査結果を役場へ報告 |
| 2007 | 異音 に関する苦情         | 直ちに調査を行い該当設備の修繕を行いました。その後異音が発生していないことを確認  |
| 2010 | 浄化槽の試験結果 に関する苦情   | 直ちに浄化槽清掃、パッキ槽の活性汚泥化、溶存酸素量の増加を図る等の改善策を実施   |
| 2015 | 近隣企業への雑草飛来 に関する苦情 | 直ちに当該地の草刈りを実施                             |
| 2018 | 廃棄物への金属片混入 に関する苦情 | 混入物返却後、直ちに全部署への注意喚起を実施                    |
| 2019 | 廃棄物への対象外混入 に関する苦情 | 混入物返却後、直ちに全部署への注意喚起を実施                    |
| 2019 | 近隣企業への雑草飛来 に関する苦情 | 直ちに当該地の草刈りを実施                             |
| 2022 | 回収ドラムの廃棄方法 に関する苦情 | 直ちに協力会社へ再周知を行い注意喚起を実施                     |

## 教育・訓練活動

災害や火災発生時の行動手順や廃液が流出した場合の対応マニュアルを作成しています。また、消防訓練や廃液流出を想定した事故の訓練を定期的に行い、万一の事態に備えています。

### ■ 廃液流出時訓練

廃液を運搬中、容器が転倒し地面に廃液が流出した事態を想定した訓練を行なっています。流出の拡大を防ぐ為に容器の流出口が登頂に来るようにして流出を止め、回転防止策としてかましを置き、ウエスで流出の拡大を防いで吸着マットやウエス・オガクズ等を使用し除去を行ないます。使用後のマットやウエスは専用容器に廃棄し、オガクズは産業廃棄物にて処理を行ないます。これらの訓練を定期的に行い、廃液の外部流出を未然に防ぐ体制を整えています。

#### ▼ 訓練風景



### ■ 防災訓練

工場内で火災が発生したことを想定して避難訓練を実施しています。火災報知機が鳴ったら従業員は速やかに避難経路で屋外へ避難します。各課ごとに人数を確認し、逃げ遅れた人が居ないかや、被害状況などを把握します。

### ■ 環境問題に関する知識、自覚の向上

環境問題に関する知識、自覚の向上を図ると共に、著しい環境影響の原因となる可能性をもつ作業に従事する従業員に対し適切な教育・訓練を計画的に行い能力の向上に努めています。

#### ▼ 資格取得者数

| 資 格 類          | 有資格者数 |
|----------------|-------|
| 有機溶剤作業主任者      | 9名    |
| 衛生管理者 第一種      | 2名    |
| 危険物取り扱い 丙種     | 4名    |
| 危険物取り扱い 乙第4種   | 3名    |
| 特別管理産業廃棄物管理責任者 | 1名    |
| 化学物質管理者        | 1名    |

## 社内の災害対策

災害対策マニュアルを策定し、迅速に対応できる体制を構築しています。

### ・ 通信手段の確保

災害で被災した拠点の状況を確認する通信手段として、業務用無線機ハザードトーク (HAZARD TALK) を設置しています。ハザードトークは災害時通信規制時でも繋がりやすいデータ通信帯域での通話が可能です。



▲ HAZARD TALK

### ・ 災害時安否確認システム

災害発生時に社員の安否状況をいち早く確認できるように、安否確認システムを導入しています。

### ・ 防災用の備蓄品

被災時に最低限必要となる防災用品として、水や毛布・ブランケット、携帯トイレ、衛生用品などの備蓄品を備えています。





Your  
Partner in  
Medication

<http://www.yuyama.co.jp/>